



博士課程教育リーディングプログラム
免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム

NEWS LETTER



number 11
2019 spring



LGS
LEADING GRADUATE SCHOOL
AT CHIBA UNIVERSITY

リーディングフォーラムでのポスター発表

LGS5期生 栢森 健介

博士課程リーディングフォーラム2018は昨年12月に一橋大学の一橋講堂で行われました。継続中のプログラムもしくは自立し発展したプログラムに、社会で活躍を始めた修了生と学修を続ける学生、様々なビジネス分野で活躍している企業人と学生・教職員が、社会に新しい価値を実装する取り組みに対して議論を交わしました。こうした活動によって、学生・修了生、企業人や教職員の間のネットワークを強化し、リーディングプログラムが築いてきた資産の将来への活用を促すことが目的です。

リーディングフォーラム 2018はセッションA、セッションBの2つのセッションで構成され、異なる価値観や経験を有する多様な学生・企業人・教職員が膝をつき合わせて議論を交わすプロセスを通して、「学生を介して生み出す教育と社会との好循環」の構築に向けたメッセージを発信しました。セッションAは「社会に新たな価値を実装する提案」、セッションBは「リーディングプログラム資産を将来に活かすこと」をテーマに議論・発表を行いました。

私はリーディングプログラムに所属する博士学生として本フォーラムに参加いたしました。セッションAの「社会に新たな価値を実装する」というテーマに基づき、プレゼンテーションを行いました。多くの博士課程学生が全国から集まり、それぞれのアイデアについて活発に議論しました。アイデアをさらに進めるために企業の担当者からアドバイスをいただくことができ、大変貴重な体験でした。他のリーディング学生のアイデアはとても魅力的であり、特に普段の自分たちの領域とは異なる分野のものはとても刺激的でした。今回のリーディングフォーラムでは素晴らしい機会に恵まれました。



英語による学位審査

LGS3期生 熊谷 仁

日本人審査員3名および外国人審査員1名の計4名をお招きし、英語で学位審査を行なった。それは、学位審査を英語で行うことがリーディング大学院(LGS)学生の卒業要件の1つであるためである。外国人審査員として、アメリカのサン・ディエゴでバイオテックカンパニーのVice-President (CSO)を務めているMark Bix氏に審査を依頼した。この学位審査はLGS学生生活の集大成とも言える行事であり、これまでの大学院生活で培った技術や能力が試される場であった。LGSでの経験を振り返ると、英語での発表技術を学ぶ「プレゼンテーションセミナー上級」が直接的に今回の発表に活かされた。さらには、理研サマープログラムや海外研修での数多くの外国人とのディスカッションは英語を話ることに対する精神的な障壁や緊張を取り除き、学位審査では堂々と自分の英語で研究成果を表現することができた。学位審査では英語での発表や質疑応答を十分に行うことができる必要があると同時に、研究内容についての論理的な思考力や説明能力も求められている。こうした論理的な物事の考え方は、様々な分野から集まったLGS学生同士との日常の会話やディスカッションから自然と身に付けることができていたのだと改めて思い知らされた。LGS学生としての4年間では様々な困難に直面し、その度に1つずつ問題解決をしてきた。この経験は、今回の学位審査を通過することに自然とつながっていた。さらに、将来待ち受けている様々な解決すべき課題に取り組むための礎を築くうえでも大変重要であったと思われる。英語による学位審査は準備の段階を含めて自分を成長させてくれる大変有意義な場となった。



Overseas Training 2018 in San Diego: Experiencing the Life in Biotech Hub

LGS 6th year member Maulana A. Empitu

What makes a successful scientist in the modern world? Often, we find that in-depth knowledge of the field and mastery of the scientific methods are no longer enough. Some qualities also required to meet the complex challenges of today's world, such as creative thinking, problem-solving, persistence, and collaborative aptitudes. Furthermore, the scientist also needs to be an avid long-life learner to adapt to and navigate through the contemporary problems of science and society.

The Overseas training in San Diego, California, USA is one of the endeavors of Chiba University-Leading Graduate School (LGS) to engage the students with a society where pharmaceutical companies devote their efforts to tackle the contemporary science problems. La Jolla is well known as one of the most vibrant biotech hubs in the world. During the five days of training, we visited three companies (Kyowa-Kirin Pharmaceutical Research Inc, Biolegend Inc, and Tanabe Research Laboratory USA Inc.), La Jolla Institute for Allergy, and University of California, San Diego (UCSD). Each of those companies and institute is working with the latest technology in therapeutics and diagnostics.

This training features two key characteristics that propelled the students' learning experiences. First, this training covered wide ranges of topics that are relevant to the present and future challenges in science. We had serial lectures not only on the latest development and technology in biotech and pharmaceutical company, but also on business development, career, and personal development training to succeed as a professional scientist. The training introduced some application cases of the latest technology in therapeutics and diagnostics such as the development of agonistic antibodies and latest flowcytometry technology.

The second, this training gathered diverse expertise and gave us a vast amount of opportunities to learn from them. During this training, we had a lecture and lively discussion with Dr. Pascal Gagneux, a leading scientist in Glycan Biology at the UCSD. We also learned science from people in different types of job titles including CEOs, R&D managers, and entrepreneurs. During the visit to Biolegend Inc, the founder of the company Mr. Gene Lay, welcomed us and shared his experience in founding and developing a company. Mr. Lay emphasized the importance of entrepreneurship in shaping the future of medicine and science.

Overall, this training was rich in both content and point-of-views. Participants of this training mentioned that this training had changed their perspectives on future career. Thus, it is giving the students not only a chance to gather more knowledge, but also one to gain a pearl of wisdom about living as a scientist. As a classical proverb says: "By learning, comes knowledge. By experiencing, comes wisdom."



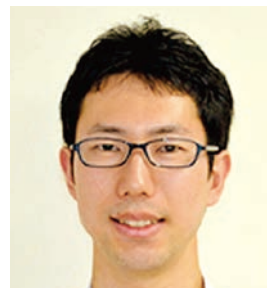
リーディングプログラムを修了するにあたって 一次世代のリーダーを目指して



藤本 真徳

LGS 3rd Year Member

本プログラムは本当に多くを与えてくれました。特に異分野の研究者との交流や、何よりLGSメンバー同士との交流を通じ、多くの優れた資質に触れることができました。それを見本に、バランスの良いphysician-scientistになれるよう努力を続けたい、またこの4年間で得た友人を大切にしたいと思います。LGSを支えてくれた先生方、事務の方々、リーディングメンバーに改めて深くお礼申し上げます。



天海 博之

LGS 3rd Year Member

リーディング大学院では、通常の大学院では得られない貴重な経験をさせていただきました。普段巡り合えない他の領域で研究を行っている優秀な方々と出会えたことで、自分の視野が広がりました。LGSで培われた思考力、行動力、友情を大切にして物事に挑戦し続けたいと思います。4年間サポートいただいたLGSの全ての方（特に本橋先生、八木先生）に感謝します。



Kokiladevi Alagarwamy

LGS 3rd Year Member

It's my pleasure to share my experience on the LGS program. It helped us for self-improvisation regarding clinical research. Therapeutic Training in USA is one of the great experiences which helped us to know the research methodology in USA. Lab rotation seminars widened our knowledge. Winter Camps, which are conducted every year, gave us a wonderful opportunity to prove our talents in designing products which are related to Medical field. It also helped us to learn the importance of Team Work. All the LGS Professors and LGS Office were very supportive and encouraging. Overall it's a great program which shapes students to become future leaders.



大谷 龍平

LGS 3rd Year Member

国際的な分野で役立つ様々な技術や経験を得る機会を与えてくれたリーディングプログラムにとっても感謝しています。このプログラムは私の視野を広げ、他の分野の研究者や志を共にする学生同士の交流を深める手助けになりました。発表や討論を通じた英語力の向上は、将来の研究だけでなく、臨床診療にも役立つものと信じています。プログラムに関わり、支えてくださったスタッフの方々すべてに感謝いたします。



菅野 敏生

LGS 3rd Year Member

アカデミアや産業界における第一線の研究活動に触れる機会や、様々な場で発表をする機会を頂けたおかげで、自分が目指したいものについてしっかりと考えることができました。自分の分野外の研究に多く触れることのできる環境であったため、やりたいことを客観視できたのが非常に有り難かったです。私自身は創薬に興味があるのですが、基礎研究の立場から、微力ながら貢献できるように邁進したいと思います。



熊谷 仁

LGS 3rd Year Member

LGSに参加しなければ決して出会うことのなかった仲間との絆は掛け替えのない宝になり、今後もより強く発展していくことを確信しています。さらにLGSでは多くの研修やセミナーを体験することができ、自分の視野を広げ、能力を獲得することができました。これからはLGSで培った全てのことを活かして大きく羽ばたいていきたいと思います。LGSで関わってくださった全ての皆様に感謝致します。



中川 拓也

LGS 3rd Year Member

リーディング大学院には、国際的な感覚を養うための研修制度が他に類を見ない程に充実していました。自主的に海外研修へ参加することは、英語力のみならず、多くの課題を多角的視点から達成する能力を養ってくれました。多くの方々から多大なサポートを頂いたことに改めて感謝したいと思います。このコースで培った能力を活用し、次のstepでもより一層活躍できるよう尽力したいと思います。



根川 真実

LGS 3rd Year Member

博士課程の4年間リーディングプログラムに参加させていただき感謝しております。国内外の研修や授業・セミナーを通して、自分の研究分野以外にも以前より興味を持つことができました。また英語を母国語とする外国人に学位審査していただいたことは、貴重な経験となりました。

今後も英語力を含め幅広い視点を持つことを意識して、グローバルに活躍できるように挑戦し続けていきたいと思っています。



福田 匡志

LGS 3rd Year Member

LGSプログラムを通じて、世界が一丸になり次の発見へ向かっていることを実感できました。過去の研究者が残してくれた知識だけでなく、我々が次は第一線の研究者となり世界に発信していく、また後輩にそれを引き継いでいくことで人類が継続して発展していくことを学びました。今、自分が求められていることはどれだけ成長できるか、なので、自分の立ち位置を見失わないようにしながら出来ることを精一杯やっていきたいです。最後に4年間サポートしていただいた事務の方々、研究費をサポートしていただいたLGSプロジェクトの方々、そして切磋琢磨したLGSメンバーに感謝いたします。



薄田 健史

LGS 3rd Year Member

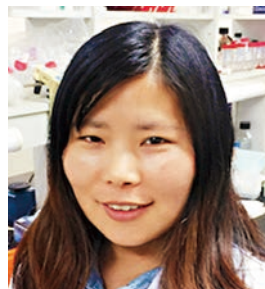
リーディングプログラムでの4年間では、自身の能力や人間性を向上させるような多くの経験を得ることができました。その中でも、2年次の夏に参加した米国サンディエゴへの国外研修は大学院修了後の進路（カナダ・アルバータ大学；日本学術振興会 海外特別研究員）の決定に大きな影響を与え、実際に海外の研究室の雰囲気を感じ取る機会を与えてくださったリーディングプログラムには心より感謝しています。また、医学研究院の同期とは公私ともに仲良くさせていただき、日々楽しく過ごすことができました。通常の博士課程では得られない大変素晴らしい経験を数多くさせていただき、今振り返ってみるとこの4年間は非常に充実していたと思います。本プログラムを通じて学んだことをこの先の研究生活あるいは人生に活かされるよう精進して参ります。



一色 佑介

LGS 4th Year Member

LGSには大学院2年生から入学させていただき、3年間お世話になりました。私がLGSに入って最も有益だと感じたことは、国際的な視点を身に付けることができたことです。プレゼンテーションやディスカッションなどを全て英語で行うことに最初は戸惑いましたが、卒業のいま振り返ってみると、この経験のおかげで自分の英語力は飛躍的に向上したと思います。また、海外研修の機会をいただいたことで、海外との関わりをより強く意識することができるようになりました。3年間の暖かいサポートに感謝いたします。



馬 敏

LGS 4th Year Member

I was deeply attracted by the LGS program from the beginning, and also am honored to have been a member of it. The LGS program not only broadened my horizons in the knowledge of science but also let me have a positive attitude to do the research. The experience I got from the Program will play an important role in my career. I would like to continue my science exploration and be a professional leader with the international mind which I have learned from the LGS program.

5th LGS Winter Camp

LGS5期生 山崎 由里子

2019年2月2日、3日に上総一ノ宮にあるシーサイドオオツカホテルにて第5回目となるwinter campを開催しました。LGSでは基礎研究の知識を社会に役立てるための方法を学ぶことをプログラムのメインテーマとして位置付けていますが、その一環として、自らの研究分野を活かした形で、知識を社会に還元するためのベンチャービジネスの立ち上げも奨励されております。このwinter campでは大学院1、2年生が3つのチームを作り、チームごとに仮想のベンチャービジネスプランを持ち寄って発表や討論を行いました。学生達は数ヶ月かけて事前にビジネスプランを準備し、winter camp当日では1日目にチームごとの発表を行い、その際に上級生や教員方から指摘をいただいて、検討し改良したものを2日目に再度発表し直すという工程になっています。

今年は「健康医療分野の未解決課題に挑戦する」というテーマを掲げて各チームオリジナルのビジネスモデルを持ち寄りしました。特に討論や発案が優れていると認められ優秀賞を得たのは、AIを用いて飛行機内での緊急患者対応をガイドするシステムを構想した「Fly Savior」チームでした。このシステムは飛行機内だけでなく、医師が不在の場で起こる医学的緊急事態一般に対応する第二のAEDを最終的に目指しており、そのビジネスモデルの実用性と応用力が高く評価されました。

また今年のWinter campでは、医療分野ですでにベンチャーを立ち上げている、株式会社Aillisの沖山翔先生に御講演を賜りました。沖山先生はAIを用いて医師の身体診察能力を普遍化するという革新的なアイデアの会社を立ち上げられていますが、救急医というご自身の経験がどのようにビジネスモデルに生かされたかという経験談や、AIにどのような用途を持たせることができるかなどのお話には学生から多大な関心が寄せられ、起業を目指す学生達のモデルとして多くの反響が得られました。

Winter campが今年度で5回目となる中、LGS卒業生の中からは実際にベンチャーを立ち上げた者も輩出され、在校生の中にその立ち上げを目指している者も増えてきました。LGSではベンチャーの立ち上げについて学ぶ機会を国内研修や授業でも多数設けていますが、特に本研修では何度も議論や発表を重ねる中で、ビジネスプランをどのように改善させるかという実践的なプロセスを学ぶことに大きな意義があります。本研修が来年度以降も成功を納め、学生達にとって実りの多いものとなることを願っています。



お問い合わせ先



千葉大学医学部リーディング大学院事務室 TEL.043-226-2817
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 lgs-jimu@chiba-u.jp

News Letter
number 11

■発行日/2019年3月